

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2007～2010

課題番号：19710211

研究課題名 (和文) 中国東北地区における植民地期以降の社会再編プロセス

研究課題名 (英文) The process of postcolonial social restructuring in Northeast China

研究代表者

坂部 晶子 (SAKABE Shoko)

島根県立大学・総合政策学部・准教授

研究者番号：60433372

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：中国東北、植民地、「満洲国」、博物館、少数民族、住民

1. 研究計画の概要

本研究の目的は、中国東北地区をフィールドとして「満洲国」という植民地期以降の社会再編のプロセスを当該地の多様な住民の視点から再構成し、植民地経験と当地の住民のアイデンティティ構成の関連について考察することにある。そのための具体的な調査研究の課題内容として以下の三点を実施している。

(1) 中国東北地区における植民地期以降現在までの通時的歴史資料の収集。

(2) 植民地期に関連する歴史資料館、博物館、記念館等の展示分析。博物館・記念館等の施設は、植民地期の含めた過去の経験の記憶の集積基地となっている。中国東北地区に散在するこれらの施設調査をとおして、多様な地域を取りあげタイポロジーを作成し、そのなかで博物館展示の展示方針や内容の検討を行う。ここから植民地時代にたいする地域的な解釈の共通性と相違が検討できると考える。

(3) 特定地域における植民地期以降の社会変容にかんするエスノグラフィの作成。中国東北社会における多様な住民の視点として、東北地区の少数民族の生活変遷をとりあげ「満洲国」期とそれ以降の生活との連続・不連続について把握する。フィールドワークによって口述資料を収集し、彼らの生活世界からみた社会変容にかんするエスノグラフィを描き出す。

上述の課題を総合するかたちで、東北地区における住民の多元的視点の抽出と分析を試み、多様な視点からの植民地期以降の社会再編プロセスについて考察する。

2. 研究の進捗状況

本研究は、上述の計画概要にしたがって次のような進展状況である。

(1) 通時的歴史資料の収集については、東北全体の資料にかんしてはすでに収集が完了している。これ以外に現地調査先の当該地域にかんする資料については、今年度も引き続き収集していく。

(2) 博物館・記念館にかんする現地調査については、これまでの3年間にすでに12カ所ほどの施設でのフィールドワークと聞きとり調査を完了している。一部の調査データにかんしては、下記の代表的な研究成果のうち、『「満洲」経験の社会学』(坂部晶子、世界思想社、2008年)の終章、および各研究報告のなかに反映されている。投稿中であるためここでは記載していないが、東寧県文物管理所元所長の宋吉慶との共著論文「戦争体験の継承をめぐって——『良識と正義の呼び声』』についても、これらの調査成果の一環である。東北地区の博物館所在地は地域的広がりがあるため、今年度も引き続き現地調査を進め、全体的なデータ把握が終了した後、総合的分析を行っていく予定である。

(3) 特定地域における植民地期以降の社会変容にかんするエスノグラフィの作成については、すでに内蒙古自治区のオロチョン族自治旗阿里河および根河市の敖魯古郷、エベンキ族自治旗の輝蘇木等で調査に着手している。今年度も引き続き、継続的な調査を行い、最終的には少数民族地域における「満洲国」期とそれ以降の生活との連続・不連続を焦点とした分析を進めていく予定である。

上記3つの課題は、データ収集および分析

の過程についてそれぞれ関連しているため、それぞれのプロセスを総合した研究成果はまだ発表していないが、下記の学会報告のなかでは、いくつかの調査データおよび植民地研究におけるライフ・ヒストリー手法の利用についてや、中国の民族政策制度についてなど研究枠組みにかかわる報告を行っている。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

上述の3つの計画上の課題について、それぞれすでに目途がついているか、本年度で完結予定であり、おおむね順調に進展していると評価する。

4. 今後の研究の推進方策

今後の推進方策については、これまで述べてきたように、上記3つの課題についてそれぞれ引き続き現地調査を行い、それをまとめたかたちでの研究成果の作成を行うものとする。

申請時点での研究計画と現在の研究状況における変更点は以下のとおりである。

(1) 申請時の研究経費より若干減額されており調査日数が幾分限定されるため、調査対象区域を中国東北地区の全体から、東北の最南端部を除いた設定としている。しかし、すでに遼寧省、黒竜江省、内蒙古自治区について現地調査を進展させており、基本的に東北地区の全体像をとらえることができると考える。

(2) エスノグラフィを作成するための対象地域については、当初は黒竜江省方正県を想定していたが、多元的な住民の視点という研究目的に照らして、少数民族地域を対象地域として設定し直している。申請時点ではアプローチできていなかった中央民族大学の関連機関の研究者との連携がとれたため、現時点では新しい設定地域での現地調査は順調に進行している。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 件)

[学会発表] (計 4 件)

(1) 坂部晶子、「非対称的なアイデンティティ (同一性) の狭間を読む——『満洲国』

の記憶の重層性を手がかりに」、ワークショップ「重層的アイデンティティと地域研究の高度化」、2010年3月15日、島根県立大学。

(2) 坂部晶子、「講述植民地歴史的現場——關於記憶的多層性」(「植民地経験の語りの現場——記憶の重層性をめぐって」)、Critical East Asian Studies Forum: International Workshop on Subjectivity of the Other、2009年8月29日、台湾・国立暨南国際大学人類学研究所。

(3) 坂部晶子、「植民地経験のライフ・ヒストリーにかんして」、日中社会学会冬期研究集会、2008年12月13日、神戸市中華会館。

[図書] (計 3 件)

(1) 蘭信三編 (著者は編者および坂部晶子他 27 名)、不二出版、『日本帝国をめぐる人口移動の国際社会学』、2008年、全 857 頁中 671-675 頁。

(2) 坂部晶子、世界思想社、『「満洲」経験の社会学——植民地の記憶のかたち』、2008年、全 261 頁。

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]